

21 こんじゃまあー (こんじゃまあー)



倉松町

秋葉灯籠から前浜に通じる道にかけての、辺り一帯を称して「こんじゃまあー」と呼んでいる。その由来は定かではないが、秋葉灯籠は秋葉大権現を祀ったものであることから、「権社（ごんしゃ）」といわれたのではないかと推測される。したがって、権社前と呼ぶのが段々になまって「ごんじゃまあー」→「こんじゃまあー」になったのでは、と想像される。



22 米津本通り (よねづほんどおり)



米津町

浜松市の最南端、太平洋に望む米津町は江戸送り地蔵・御台場跡等の歴史が彩る人情豊かな農漁村であったが、戦後の急速な発展に伴い漁業は暮を閉じ、専業農家も減少している。この道路は、昭和33年から行われた西南部土地改良区による事業の結果生まれた道路で、中田島町から倉松町まで通じる主要な東西道路である。町民の生活道路として広く利用されている。



23 寺宮前通り (てらみやまえどおり)



米津町

米津町公民館から米津本通りと別れ、神神社前、安泉寺前を通り、倉松町に至っている。公民館及び安泉寺の門柱には、昔、馬込川河口からの逆流を防いだ八艘入りの水門柱が使われており、米津町の水防の歴史を物語っている。また、安泉寺境内には、安永年間（1772年～1781年）理不尽な藩役人のため江戸送りとなった六義人を祭る江戸送り地蔵が悲しい物語を秘めて立っている。



24 御台場通り (おだいばどおり)



米津町

東若林町から米津海岸に至る道路で、途中県道竜洋舞舞線（通称掛舞線）及び国道一号線と交差している。江戸末期、幕府の命令により浜松藩が海岸警備のため米津海岸に築造した米津台場の跡が今もその姿を残している。また、この道路は高射砲道路とも呼ばれ、太平洋戦争中、海岸に高射砲陣地が設けられ、軍隊が往來した。



25 請願道路 (せいがんどうろ)



米津町

県立浜松南高校西側で、掛舞線から米津の浜に通じ、米津町を南北に横切る通りである。現在は浜松中央部に資材を運び大型トラックが頻繁に往来する産業通りとして利用されている。昔、米津町から浜松中央部へは、御台場通り以外には道路がなく、農産物の出荷や買物の際に大変な遠回りとなり、不便をしていた。昭和26年ごろ住民が米津発展のためどうしても道路が必要であるとして、請願書を提出してできた通りで、いつのまにか請願道路とよばれるようになった。



26 松林通り (まつばやしどおり)



米津町

昔の防波堤の北側に沿った東西の道路である。堤は松林となっており、両側から伸びた枝が道を狭くしてリヤカーがやっと通れるほどで、そんな道が100mくらい続いていた。また堤の南側はさつまいもをいける（保存する）のに格好の所であった。この道の北側一帯を松林と呼ぶので、「松林通り」と名付けた。今は堤はなくなり、平坦になり、国道1号の側道として利用されている。



27 六軒通り (ろっけんどおり)



米津町

明治の初めごろまで、この付近には家が六軒しかなかったために、「六軒」と名付けられたといわれ、今もこの地名で呼ばれている。昭和40年ころまでは、大変ゆっくりとした戸数の増加だったが、住宅の建築が盛んになり、平成元年ころには63戸を数えるにいたっていて、この通りはその人たちの生活道路になっている。



28 将軍塚 (しょうぐんづか)



田尻町

田尻町の松本修次さんの屋敷の一角に大きな石が陣取っている。この石は古墳状の塚の上にあったもので、人々はその塚を将軍塚とも金山塚（かなやまさま）とも呼んで村の浄域としていたが、明治27年この塚はとりこわされた。昔、木曾義仲（朝日将軍）の家臣の一人が敵の目ののり、遠江国田原に土着したといわれている。この塚から発見された刀や鎧は、家臣がひそかに隠したものだといふ。古墳時代の「田原第一古墳」でそれを木曾義仲の家臣が利用したものと考えられている。



29 才業地蔵 (さいぎょうじぞう)



田尻町

昔、田尻新田村に神谷という酒屋があった。ある日、行脚の旅を続けてきた酒井才業と称する六部が当地で行き倒れているのを見た酒屋の主人は手厚い看護をしたが、病は重くなり、死期を悟った才業は自分の故郷へ手紙を出した。しかし、あて先がわからず戻ってきた。才業の死後、手紙は供養碑とともに神谷家に保存されていたが、後世の人が東隣の堤に供養碑を移し替えた。1840年ころに神谷家は葬式が続き、遂に絶えてしまった。近隣の人達で行われた供養祭を田尻新田の家々で引き継いだ。



30 宝勝寺のまきの木 (ほうしょうじのまきのき)



田尻町

1850年のある夜、大雨のために天竜川の堤が切れて、水が田尻の村に押し寄せた。闇のなかに人々が流されていったが、一本の大木が夜目にもくっきりと光って見えた。それは村の人々が信心をしていた宝勝寺の境内の大きなまきの木であった。人々はこのまきの木につかまって水の引くのを待ち命びるようになった。それからこの村びとたちはその木を霊木としてあがめたという。



31 かのんみち (かのんみち)



田尻町

田尻町と神田町の間に権入橋（ごんりばし）がある。ここから田園の中を北東へ向かう道である。大雨が降ると水たまりを渡って歩くような低い道であり、中瀬・田代・畑田・十三石を経て、湯田町南隣の埋葬墓に至る。かつては、太子淵で知られている光福寺前を通って、新川の一番南の橋を渡る龍神寺の鐘楼が見えた。この龍神寺に観音様が祭られていて、その参道だったため、かのんみちと呼ばれた。今は土地改良事業の完成により姿を変え、昔ししのぶ跡もない。



32 幕免 (まこめん)



田尻町

昔、田尻町の南には、浜どい、中どい、幕免どいという3本堤防があった。「どい」とは「どえ、土瀬（どえい）」のことと思われる。幕免はこのあたりの地名で、およそ10軒位の住家があり、その家を含めて、中どいから「はこばし（縮端）」を挟んで幕免どいまでの10町歩という。地名の由来ははっきりしないが、昔の大名あるいは、代官、庄屋等に関係するのかもしれない。今は土地改良のため、大きく様変わりしている。「はこばし」は都市計画道路建設に伴い改修され、面貌一新している。

